

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	67人	算数	67人	理科	67人
第5学年	国語	78人	算数	78人	理科	78人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

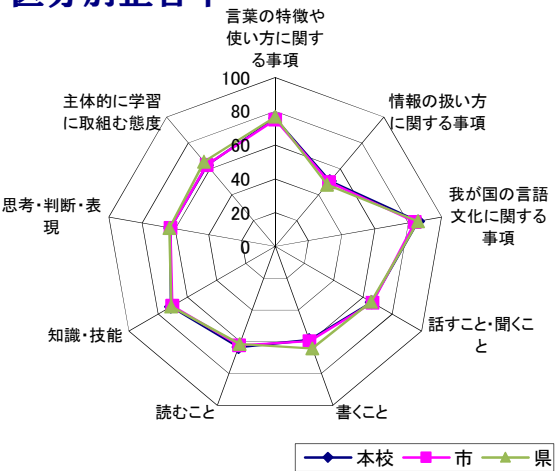
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.9	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	50.5	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.9	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	65.9	66.5	65.5
	書くこと	59.0	59.6	64.2
	読むこと	63.3	62.2	61.5
観点	知識・技能	71.2	70.2	71.1
	思考・判断・表現	63.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	62.8	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

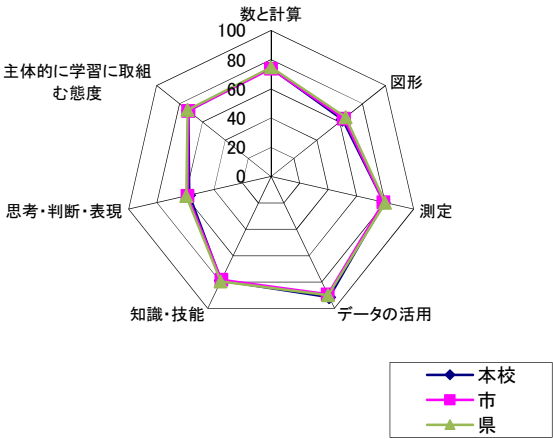
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○「漢字の書き」や「主語と述語の関係」に関する設問では、市の平均より高い傾向が見られる。 ●「様子や行動を表す語句」や「ローマ字の読み」に関する設問では、市の平均より低い傾向が見られる。	・様子や行動を表す語句については、朝の学習や授業の中で、言葉の意味調べをする場の設定をこまめに行い、それを使って短文を作らせるなど、言葉を正しく使えるようにしていく。 ・「ローマ字の読み」については、ローマ字プリントを用意し、朝の学習を中心に日々取り組ませることで、日常的に慣れ親しむことができるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えている」の設問では、市の平均より高い傾向が見られる。 ●「情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している」の設問では、市の平均より低い傾向が見られる。	・物語や説明文を読む際に、大事な言葉(キーワード)は何なのかを捉えさせたり、登場人物の気持ちの変化や筆者のメッセージを考えさせたりすることで、中心となる語や文を見付け出すことができるようにする。 ・単元最後に、物語や説明文を一文で書き表す活動を取り入れ、初めてそれを読む人にも分かりやすく紹介できるような表現力を身に付けさせ、要約する力を高めしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○「漢字のへんやつくり」の設問では、市の平均正答率より高い。	・引き続き漢字のへんやつくりを意識して学習に取り組ませることで、漢字辞典の活用に生かせるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」の設問では、市の平均正答率より高い。 ●「互いの意見の共通点や相違点について着目して、考えをまとめている」の設問では、市の平均正答率より低い。	・話し手の工夫を捉えることはできているので、今後は、自分の考えを整理して話す活動を積極的に取り入れ、理由を挙げながら相手に伝えるように話すことができるような学習活動を行わせていく。 ・意見を出し合う場面では、友達の意見と自分の意見を比べながら話し合わせたり、複数出た意見を一つにまとめさせたりするなどして、共通点や相違点について着目できるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○「自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書く」の設問では、市の平均正答率より高い。 ●「指定された長さで文章を書いている」の設問では、市の平均正答率より低い。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」の設問では、市の平均正答率より低い。	・自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことはできているので、今後は、伝えたいことを文章にする機会を増やしたり、2段落以上の構成で文章を書く方法を重点的に指導したりしていく。 ・日頃の授業で、調べたことを文章にまとめる学習活動を取り入れ、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にできるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○「文章を読んで感じたことや分かったことを共有している」の設問では、市の平均正答率より高い。 ○「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている」の設問では、市の平均正答率より高い。 ●「叙述を基に段落の内容を捉える」の設問では、市の平均正答率より低い。	・朝の読書の時間や「うち読」の時間を生かして、読書活動をより一層推進していき、読み取る力を身に付けさせていく。 ・国語の時間に、文章の要点となるキーワードを考えさせ、それを押さえることを全体で行うなどして、要点に注意しながら読み取れるようにする。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.2	73.8	74.8
	図形	62.5	63.7	65.3
	測定	79.1	78.9	80.1
	データの活用	91.5	89.3	90.0
観点	知識・技能	78.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	57.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	72.3	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

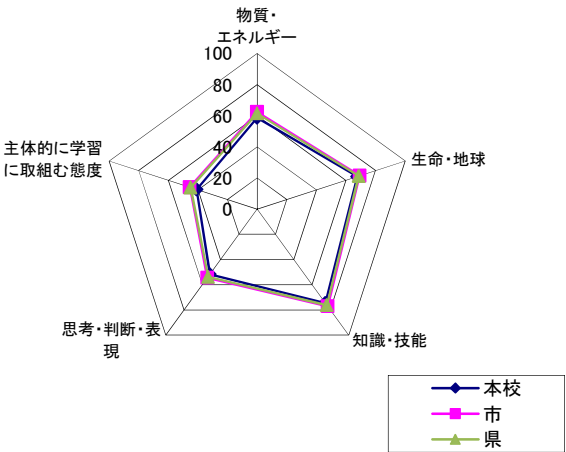
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。 ○和差積商を計算で求める問題については、ほぼ市の平均を上回っており、基礎的な計算力が身に付いていることが伺える。 ●整数-小数第一位の計算など、注意するポイントのある比較的難易度の高い計算問題や、基本的な計算を活用して解答を導いたり説明したりする問題に課題が見られる。	・今後も教科書の問題や、計算ドリルやタブレット等を活用し、個々の能力に応じ繰り返し練習問題に取り組んでいくことにより基礎・基本的な内容の定着を図る。 ・間違えたポイントや理由を明らかにしながら、丁寧に間違い直しすること、解き方を式や略図を活用して示したり友達に説明したりすることなど、身に付いた基本的な学習内容を活用して課題に取り組む場面を意図的に設けるなどし、思考力を高めていく。
図形	平均正答率は、市の平均よりもやや低い。 ○二等辺三角形を正確に作図することができている。定規やコンパスの扱い方を確認しながら何度も操作し、基礎的な技能の定着を図ったことが効果的だったと考えられる。 ●円の直径や半径についての知識の定着に課題が見られる。円と球の単元では、基礎的な問題(9の1)の正答率が市の平均よりも低かった。	・今後も、定規やコンパスなどの具体物を使った操作活動を通して理解を深められるようにする。また、ドリルやプリントを活用しながら反復演習を行い、知識や技能の定着を図っていく。 ・5年生の「正多角形と円」の導入では、円を切り取った紙や紙などを提示し、実際に操作しながら、円の中心や半径、直径の復習をして、図形への理解を深められるようにする。
測定	平均正答率は、市の平均よりもやや高い。 ○2つの時刻の間の時間を求めたり、地図から道のりを読み取って、その和を求めたりすることはよくできている。模型時計や図を用いて時間や道のりの求め方を考え、説明する活動を取り入れたことで、理解を深めることができたと考えられる。 ●適切な単位を使って表したり、単位換算したりすることに課題が見られる。単位に関する問題の正答率は全て市の平均よりも下回っている。	・図形と同様に、はかりや時計などの具体物を操作して学習した単元では測定技能や知識が身に付いているので、今後の指導でも操作活動を積極的に取り入れて、量感や測定技能を養っていく。 ・単位のしくみの学習では、単位を表に整理し、それぞれの単位に共通する接頭語(キロやミリ)や大きさの関係について考察し、理解を深められるようにする。今後学習する単位についても類推的に考え、単位のしくみについて主体的に考察できるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○棒グラフで、1目盛りの表す数がよく理解できている。 ●棒グラフを読み取り、指示されたことを答えることは概ねできているが、問題を正確に読み取り、理解することを苦手としている児童も見られる。	・今後も、算数だけでなく、他教科でも棒グラフや折れ線グラフを読み取る活動があったときには、その都度正しく読めるようデジタル教科書や実物投影機を活用して目盛りの正しい読み方を押さえ、指導していく。 ・わかっていること、問われていることなどポイントになる言葉や数値に印をつけながら問題を読むなど、日ごろから問題の意味や問われている内容を理解しながら課題に取り組むようにする。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.7	62.5	61.5
	生命・地球	67.7	69.2	68.6
観点	知識・技能	74.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	51.6	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	40.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○問題の内容別で見ると、「音のせいしつ」「風やゴムのはたらき」「電気の通り道」においては、市の平均正答率とほぼ同じである。 ○特に、「電気の通り道」の「おもちゃの構造を理解し、適切な回路を構想できる」の設問では、市の平均正答率より高い。 ●「物の重さ」においては、市の平均正答率より低い。 ●「光のせいしつ」の「水を入れたペットボトルが光を集めたことを、虫眼鏡に適用できる」の設問では、市の平均正答率より低い。 ●「じしゃくのせいしつ」の「方位磁針の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述できる」の設問では、市の平均正答率より低い。	・知識的な問題については、復習プリントやAIDリル等を活用して再度確認をする。 ・実験や観察の結果からの推測や考察の記述に関しては、自分の考えを言葉で表す力を育むために、参考となるキーワードを示す。また、常に共通点や差異点に着目させ、なぜそのような結果になったのか理由も合わせて記入する。 ・理科学的な現象や性質について「なぜ、どうして」という疑問や関心をもたせる学習を展開していくことで、主体的に問題解決に臨み、理解を深められるようにしていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ホウセンカの育つ順と草丈の関係を正しく表しているテープ図を適切に選ぶことができています。「植物の育ち方」においては全ての問題で市の平均正答率を上回っており、栽培・観察を通して植物のからだのつくりやその成長のしかたについてよく理解できていることがわかる。 ●完全変態と不完全変態の昆虫の理解については課題が見られる。カブトムシやトンボなど身近な昆虫でも関心が薄いことが考えられる。 ●影踏み遊びにおいて逃げ方を判断し理由を答える問題では、太陽のある位置と影のでき方の関係をもとに記述することに課題が見られた。	・実際の飼育観察が難しい場合、映像資料を積極的に使用し、身近な昆虫のからだのしくみや成長について児童の理解を深める。 ・予想、実験、結果、考察の手順の一つ一つを丁寧に行い、事象とその理由のつながりを意識した学習を継続していく。また考察において参考となるキーワードを示し、自分の言葉で記述することを練習していく。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の肯定割合は、市の平均と比べて14.9ポイント高いことから、自主学習に前向きに取り組んでいる児童が多いと言える。また、「学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)1日当たりどのくらい勉強をしていますか」という質問に対し、30分以上学習している児童は、市の平均と比べて3.2ポイント高く、学年に応じた学習時間(40分以上)が確保できている児童が多いことが分かる。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強している」や「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した児童の肯定割合は、市の平均と比べてどちらも10ポイント以上低く、自主学習の進め方が分からない児童も多いことがうかがえる。家庭学習の進め方のポイントを児童や保護者に伝達するなど、家庭と連携を図りながら児童が自主的に家庭学習に取り組めるように努めたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童は、市の平均と比べて5ポイント高かった。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の肯定割合も、市の平均と比べて9.6ポイント高かったことから、授業の中で意図的に言語活動を取り入れ、主体的に学ぶ児童の育成に努めた成果が表れていると考えられる。今後も話し合いの場を積極的に設け、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしたい。

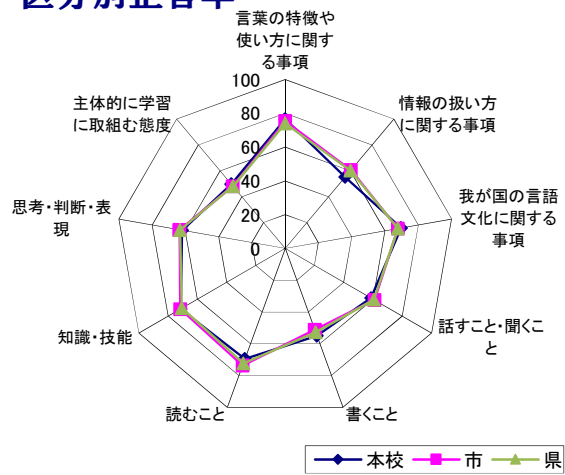
○●算数の学習では、「授業は好き」「内容を理解できている」と回答している児童が多かったが、ノートに自分の考えを整理することは苦手と回答している児童も多かった。今後、ノートに書いたことを友達同士説明し合う場をより多く設け、うまくまとめている児童を手本にさせるなど、ノート指導の充実に努めていきたい。

●生活面では、早寝早起きができいない児童の割合が市の平均よりも5ポイント以上高く、1日(平日)の睡眠時間が6時間以下の児童の割合は市の平均よりも2.6ポイント高い結果となった。1日のテレビや動画の視聴時間が4時間を超えたり、日頃からゲームをしたりする児童の割合も市の平均と比べると大幅に高いことから、早寝早起きができない原因になっていると考えられる。保健の授業等を活用して、自分たちの生活を見直し、睡眠不足や長時間の映像視聴が及ぼす健康

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.6	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	55.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	69.7	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	58.7	61.0	60.7
	書くこと	54.9	51.2	52.8
	読むこと	69.5	73.7	72.4
観点	知識・技能	71.5	71.7	70.6
	思考・判断・表現	62.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	49.7	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

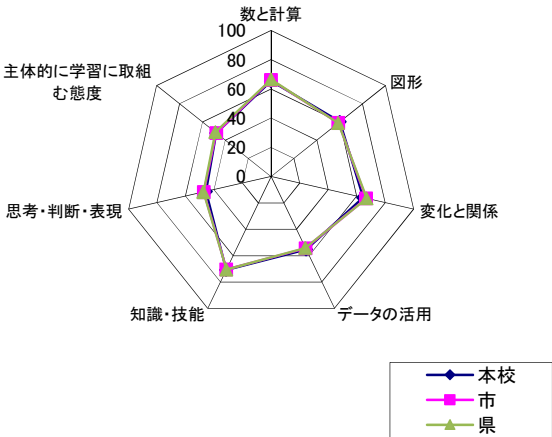
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○漢字の読み書きについては、市の平均を上回る問題が多く、校内の正答率が100%の設問もあった。 ●連用修飾語に関する設問の正答率は、市の平均を下回った。	・今後も、家庭学習や朝の学習の時間などを活用して漢字練習やスキルの学習を行い、小テストで確認をしながら基礎的な漢字の読み書きの力を定着させていく。 ・各単元の学習の中で、主語や述語、修飾語などを指導する機会を意図的に作り、児童が文章を書いたり読み取ったりする際も繰り返し指導するよう努める。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字辞典の使い方にに関する設問では、市の平均を6ポイント下回った。 ●情報と情報の関係について理解し、要約したり意見を書いたりする設問では、市の平均より約5ポイント低い結果であった。	・漢字辞典を活用する機会を作り、どの索引を使うと調べやすいかも考えさせていく。 ・説明文の要約や物語のあらすじなどの学習をする際、文章の中心となる語や文を見付けて自分の言葉でまとめる学習を行い、全体で共有したり個別に支援をしたりして力を付けさせていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○適切なことわざを選ぶ設問では、市の平均正答率より高かった。	・今後もことわざや慣用句など、我が国の言語文化に触れる機会を作り、身に付くよう働きかけていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章を聞き取って答える設問では、市の平均とほぼ同じ正答率であった。 ●調査の結果をもとに話し合う設問では、正答率が市の平均を下回るものが多かった。	・朝のスピーチや総合の発表のときなどに、聞き手が質問したり感想を伝えたりする活動を継続し、相手の話を真剣に聞き、要点を捉えることができるようにする。 ・話し合い活動を多く取り入れ、司会役となって話し合いを進行したりまとめたりする体験を重ねることで、話を聞いて相手の意図を組むことができる力を付けていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「指定された長さで文章を書く」「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く」など、4つの項目すべてで市の平均を上回った。 ●「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている」では、市の平均は上回ったものの、正答率が50%を下回った。	・段落構成について復習したり、事実に対する自分の考えを書く学習を意図的に取り入れたりして、伝えたいことを明確にできるようにする。 ・授業の中で、メモをもとに文章を書いたり、調べたことに対する自分の考えを書いたりする活動を取り入れ、文章を書く楽しさを身に付けるよう支援していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○叙述をもとに段落相互の関係を捉える設問や文章を読んで考えたことを共有する設問では、市の平均をやや上回った。 ●叙述をもとに登場人物の気持ちや文章の内容を捉える設問では、市の平均を約8～12ポイント下回った。	・朝の読書や図書館利用の時間を活用し、読書活動をより一層推進することで、叙述をもとに内容を捉えられるように支援していく。 ・物語や説明文を読み取るときに、文章の要点となるキーワードを押さえることを学級全体で行うなどして、中心となる事柄や場面の様子を読み取れるようにする。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.4	66.1	66.4
	図形	60.2	58.9	58.8
	変化と関係	64.7	66.6	67.0
	データの活用	55.3	54.4	54.2
観点	知識・技能	70.8	70.4	70.6
	思考・判断・表現	45.7	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	47.9	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

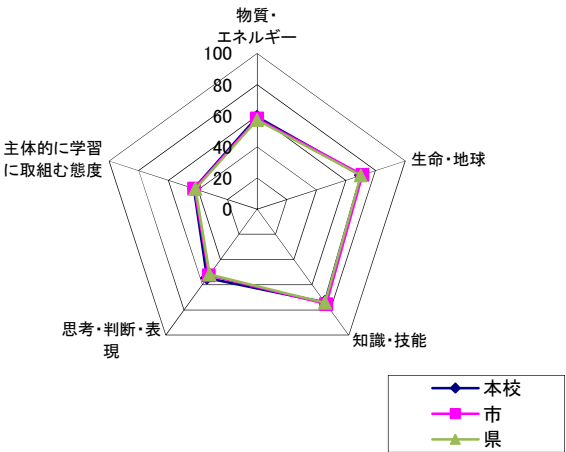
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりもやや低かった。 ○3けた÷2けた＝2けた(あまりあり)の計算がよくできていた。割り算の基礎はしっかりと定着している。しかし、小数の足し算になると正答率が低くなる。 ●四則や()の混じった式の計算順序の問題では、分配法則や計算の順序を理解できておらず、課題が見られた。	・今後も計算の基礎・基本を重点的に指導を行い、高学年でつまづきやすい小数の割り算などで生かせるようにする。また、整数での考え方を生かし、小数になっても応用できるように指導したい。 ・計算のきまりについては、計算の工夫に関わりのある単元のため、繰り返し練習問題を解くなどパターンに慣れるように工夫し、計算のきまりについて理解を図れるようにする。また、四則演算が身に付いていない児童には、基本が定着するようかけ算九九の復習から習熟を図る。
図形	平均正答率は、市の平均よりもやや高い。 ○コンパスとものさしを使って、平行四辺形を正しく作図することがよくできていた。作図の基本的な技能を身に付けていると考えられる。さらに、分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方を理解している。 ●複合図形の面積の求め方や少数の式を表した図を選ぶことに課題が見られた。複合図形の面積の求め方について、何を問われているのか読み取れていないことが分かる。	・図形に関する学習では、操作活動を数多く取り入れることで、図形の定義についての理解をより確実なものにしていく。 ・複合図形の学習では、面積の求め方について、友達の考えを共有する時間を十分に確保して、考えを広げられるようにする。 ・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均よりも低かった。 ●伴って変わる数量の一方の値から、もう一方の値を求めたり、2つの数量の関係を式に表すことに課題が見られる。児童にとって身近な年齢を扱った問題だったが、正答率が低い結果となった。	・数字の関係を考える際に、グラフや問題文を正確に読み取れるよう、練習を重ねる。式を立てる際に、数の関係を言葉で表すことができるように、実生活の具体的な例を挙げ表や式で表す学習を取り入れる。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりもやや高い。 ○折れ線グラフから変わり方を正確に読み取ることがよくできている。また、二次元表の読み方を理解しており、グラフや表について理解している。 ●2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題にやや課題が見られた。複数の資料からどこを読み取ればよいかが分からない傾向が見られた。	・グラフや表から読み取れることを話し合ったり、互いに考えを伝え合ったりする活動を取り入れることで、多面的に資料を読み取る力を高めていく。 ・算数を中心に他の教科領域でのデータに関する学習活動を多く取り入れ、活用能力の向上に努める。 ・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.3	58.1	57.2
	生命・地球	70.2	71.1	70.0
観点	知識・技能	74.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	54.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	42.7	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○温度の上昇・下降によって体積がどう変化するかについて選択する問題はよくできている。物質ごとの特徴を捉え、応用することができている。授業での実験の結果を受けてしっかりと考察している成果であると考えられる。 ●物の温まり方について、水槽内のどこにヒーターを設置したらよいか選択する問題について課題が見られる。学習した実験の内容を自身の生活と結び付けて考えることができていない。	・今後も実験後にしっかりと考察する時間を確保し、自分の言葉で、結果から分かることを考えさせる指導を継続していく。 ・実験を生活の場面に置き換えて考えさせるなど、授業の中で生活と結び付ける場面を設定するように心がけて指導していく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均よりもやや低い。 ○天気の様子と気温について、気温をはかる条件や記録温度計から天気の変化を予測することはよくできている。天気の変化とその他の条件の関連性をよく理解できていることがわかる。 ●月と星の満月の1日の動き方について選択する問題では、正答率が市と比較して10ポイント以上低い。また、同単元の半月の動きを理解し、どの時刻の半月かを選択する問題では、市と比較して4ポイント低く、正答率は18.7%と非常に低い結果となった。 ●動物の体のつくりと運動における、腕を曲げたときの筋肉のようすの問題に課題が見られる。	・予想、実験、結果、考察の手順の一つ一つを丁寧に行い、事象とその理由のつながりを意識した学習を継続していく。結果につながる条件が変わるとどうなるのかということも併せて考察できるようにする。 ・月や星が、東から南、西へと動いていくという基本的なことを理解できていない児童が多いため、教科書の写真資料だけでなく、映像資料を積極的に使用し、児童の中に動き方のイメージを構築する必要がある。また、4年時にも行った月の観察実験を再度行い、実際の方角と動き方を合わせて確認することも必要である。 ・腕を曲げる際に縮む・ゆるむを正しく選択できていないため、模型を用いて再確認する必要がある。今後、肺の働きについて理科で学習するが、その際にも実際に模型を作ってその構造を理解できるように指導していく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は75.7%で、市の平均と比べて5.1ポイント高い。また、「月～金曜日の学校の授業時間以外に、1日当たりどのくらいの時間勉強しているか」の問いに対し、「1時間以上学習している」と回答した割合は60.9%で、市の平均と比べて7.4ポイント高く、学校が休みの日は63.5%で6.5ポイント高い。これは、宿題の他に家庭学習ががんばりカードを活用したり、手立てを講じながら児童の自主学習を推奨したりすることで、児童の意識が高まった成果と考えられる。

○「1か月に、何冊くらい本を読みますか」の問いに対し、3冊以上と回答した児童の割合は78.3%で市の平均を7.9ポイント上回っている。毎週本を貸し借りする時間を十分確保していることや、朝の読書を勧めていることなどの成果であると考えられる。今後も読書を推奨していきたい。

○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合が82.4パーセントで市の平均を6.6ポイント上回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合が89.2パーセントで、市の平均を10.2ポイント上回った。授業の中で話し合う機会を多く設け、話し合いの意図を明確にしながら活動した効果があった。今後も、授業に話し合う活動を取り入れ、言語活動の工夫を行っていきたい。

○「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合は86.5%で市の平均を3.8ポイント上回った。また、他の設問でも、学級の雰囲気や児童同士の助け合い、教師からの言葉掛けなどに関する正答率はどれも市の平均を超えており、学校全体で取り組んでいる「きらりコーナー」による認め合い等の効果が表れていると考えられる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定割合は47.3%で、市の平均と比べて4.6ポイント低い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」は54.1%で、市の平均と比べて10.4ポイント低い結果となった。テストに関しては、学校で返却する際に直しをしているが、さらに自主学習等で理解不十分な学習について自分から進んで取り組めるよう働きかけたい。また、復習を大切にしながらも、予習についても少しずつ取り組んでいけるよう声を掛けていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定割合は55.4%で、市と比べて8.3ポイント下回っている。また、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の肯定割合は54.1%で、市より12.6ポイント下回った。分からないことがあったら、情報リテラシーや情報モラルの指導もしながら自主学習等で、本やインターネットを積極的に活用して調べる習慣を身に付けさせたい。

●「家の人と学校のでできごとについて話をしている」の正答率は83.8%、「家の人と将来のことについて話すことがある」は66.2%という結果で、市の回答を3.1から4.6ポイント下回った。家庭での話題となるように、学年だよりで学校の様子を伝えたり、キャリアパスポートなどを活用したりするなどの工夫を行っていきたい。

宇都宮市立陽南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	・各教科で目的に応じた「書く活動」を取り入れ、自分の考えを豊かに表現できるようにする。	・4年、5年共に、国語において、指定された条件に沿って文章を書いたり、理由を明確にして文章を書いたりする設問で市の平均を上回った。
	・「話し合い」の活動を取り入れ、自分の考えと友達の考えの違いや新たな考えに気付かせるようにする。	・4年、5年共に、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童の肯定割合が、どちらも市の平均より9ポイント以上高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4、5年とも「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問に対する肯定割合が、市の平均より低くなっている。	・自分の考えをもち、自己表現する場の設定	・自分の考えを発表する場を各教科で計画的に設けるようにする。 ・少人数での話し合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。